

# ●市民の命と安全を守るための最重要課題

## ～萩医療圏で原則完結できる二次救急医療体制の再構築～

**萩医療圏の二次救急医療は、すぐにでも崩壊のおそれがある危機的状況**

医師不足により、命に関わるような患者の受入や治療に支障が出ています。

萩市と阿武町が圏域の萩医療圏では、二次救急指定4病院のうち1病院が令和2年4月末に輪番病院を辞退。以後毎月8日程度は当番病院が決まっていない日が発生

現在は3病院（萩市民病院・都志見病院・萩むらた病院）が毎月22日程度を輪番制で二次救急に対応

当番病院が決まっていない日は、救急隊や病院の努力で、何とか1～3回の救急受入調整で受入病院へ搬送できているが、3～4%の割合で、4回以上の調整になり、搬送に時間がかかってしまうケースも発生

### 救急医療体制のしくみ

区分	説明
<p>■一次救急</p> <p>✓軽症患者に医療を提供</p>	<p>・入院の必要がなく<b>帰宅可能な軽症患者</b>に対応</p> <p>【対応医療機関】診療所、クリニック、休日急患診療センターなど</p>
<p>■二次救急</p> <p>✓24時間体制で救急搬送患者に医療を提供</p>	<p>・<b>救急車で運ばれる、手術や入院が必要な患者</b>に対応</p> <p>【対応医療機関】二次救急指定病院</p>
<p>■三次救急</p> <p>✓さらに高度な医療を提供</p>	<p>・一次救急や二次救急では対応できない<b>重症・重篤患者</b>に対応</p> <p>【対応医療機関】山口大学医学部附属病院、県立総合医療センターなど</p>

### 関係機関が日々献身的な努力を続けているが、このままだと萩医療圏の二次救急がもたない

他の医療圏の救急指定病院に協力を依頼しましたが、

原則、他の医療圏からの救急搬送の受入は困難

との回答



- ・他の医療圏の救急指定病院に頼らず、**二次救急医療体制を再構築するしかありません。**
- ・救急医療が守れなければ、市民の安全が確保できず、大きな社会生活不安に繋がりがねません。
- ・何としても救急医療は、行政・市民が**医療機関と協力して守っていかねばなりません。**